

tamtam

2021.9
VOL.12

P1 [特集]ダイバーシティを地域づくりに

P2 [特集]多様性の意味とその性質例
地域自治組織と多様性

P3 隣の自治協さん「中央地区自治振興会」
丹波市民、学びの窓「スポーツにおけるダイバーシティ」

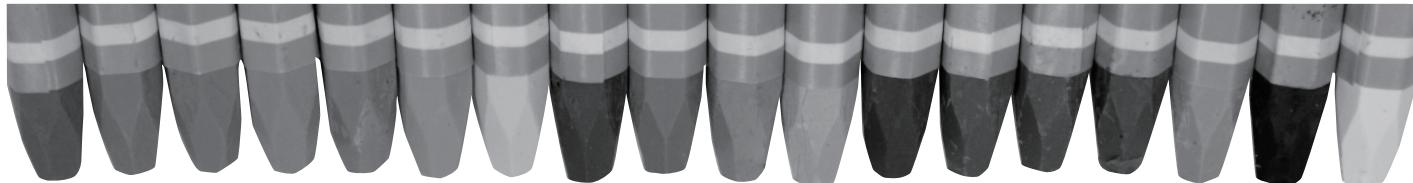
P4 繋ぐ!市民活動「水彩バルチザン」
活動事業者紹介「丹波 婦木農場」

SPECIAL FEATURE
今号の特集

ダイバーシティを地域づくりに



DIVERSITY



私たち1人ひとりにはいろんな性質や特徴などの違いがあります。例えば、年齢、性別、国籍や人種、居住地、家族構成などの外観的な違いがあれば、思想や能力、価値観と言った内観的な違いもあり、1人の人間が持つ違いは数えきれません。このような違いの組み合わせが個性をつくっています。

自分と違う個性の人を理解することは、必ずしも簡単ではありません。また、多数を占める同じ性質の人の中にいると、少数の違う性質の人をつい否定したり、遠ざけたりすることがあるかもしれません。少子高齢化が進み、みんなで暮らしや地域を支えなくてはいけない現代社会においては、お互いの違いを認め

合い、違った見方や発想から生まれる新しい価値観がこれから新しい社会を作っていくことになるのではないでしょうか。

違いを認めることは多様性を生むきっかけにもなります。年齢だけを見ると、丹波市では、60~70歳代の市民が多数派となっています。多数派だけの意見でまちづくりを進めのではなく、例えば、子どもや若者、さらには障がいのある人や外国籍の人などの多様な市民の意見を反映することが、誰もが尊重されるまちづくりにつながるはずです。

今回の特集では、多様性を認め合い、違いを尊重し合うことを意味する「ダイバーシティ」と地域づくりについて考えます。



丹波市市民活動支援センター

TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

Topics 01 多様性の意味とその性質例

「多様性」という概念だけでは、はっきりとしたイメージが湧きにくいものです。辞書を引くと『いろいろな種類や傾向のものがあること。変化に富むこと。』(大辞泉)とあります。この意味には単純に「いろいろなものがあること」ではなく、「性質」に類似性のある群が形成されていること」が含まれているようです。多様性をもう少し理解するために、その“性質”について掘り下げてみます。

年齢や性別、人種などは見た目でも判断しやすく比較的わかりやすい性質だと言えます。しかし、単に性別と言っても、生まれ持った生物的性別以外にも、性自認（自分の性をどのように認識しているのか）や性的指向（どのような性別の人を好きになるか）は、見た目では判断しづらく、本人の意志によっては開示していないこともあります。

性別以外にも、障がいの有無などは、身体障がいや知的障がい、精神障がい、発達障がいなど種類や度合いは人それぞれです。国籍、民族、宗教観などいろいろな考え方の違う人が、実はすぐ近くに住んでいることもあります。

これら全ての情報を正確に把握し、かつ周りに暮らす住民の考え方を把握しておくことはほぼ不可能です。さらに、その性質を把握していたからと言って、その人個人を知ったかのように思うことも、個性を見ない関わり方となり、個人の考えを理解できなかったり、相反してしまったりすることもあるかもしれません。まずは他人の声に耳を傾け、「私とあなたは違う」ということを認め合うことが、多様性を大事にする地域への一歩なのかもしれません。

わかりやすい 性質	例	● ● ● 年齢、性別、体格、出身、人種、国籍、言語、学歴、職歴、身体障がい、知的障がい
	特徴	● ● 見た目で判断しやすい 自己開示していることが多い 会話で判断しやすい 日本社会において開示されていることが多い
わかりにくい 性質	例	● ● 性自認、性的指向、生理、結婚感、民族、宗教、倫理観、ライフスタイル、収入、働き方、趣味、服装、デジタルリテラシー、健康状態、アレルギー、トラウマ、精神障がい、発達障がい、難病
	特徴	● ● 見た目で判断しにくい 個人や家族で隠していることもある 人に言わないことが多い 個人によって考え方の違いが大きい

Topics 02 地域自治組織と多様性

丹波市内で多様性が尊重されにくい環境の例の1つに、自治会でのルールや運営方法を挙げられことがあります。例えば、溝掃除や草刈りなどの日役で免除規定がある自治会では、一定の年齢以上や障がいのある住民には不参加を認めています。高齢や障がいのある住民に寄り添ったルールと言えるかもしれません。しかし、日役を免除された住民にも参加できる作業内容を設けるなどの工夫も考えられます。また、総会・行事の日程や参加方法の設定においても参加しにくい住民に配慮した対応が必要ではないでしょうか。

ダイバーシティの視点では、人々が多様のままでいられることが大切です。それは、「あなたはここにいていいんだよ。」というメッセージになります。そして、多数派のルールだけなく、様々な違いがある少数派の意見を大切にすることで、今まで他人事だったことを自分事にできる主体性のある住民が増えることにつながるのではないかでしょう。

自治会では、以前までの同じ立場の多数派を想定した活動が当たり前のように存在し、続けられているところが多くあります。長年にわたって続いている

自治会の活動やルールですが、その地域に暮らす住民の多様性を大切にする自治会になるために、今、思い切って視点を変えていく時期に来ているのではないでしょうか。



自治会での草刈り日役

さ ま た ん そ う じ か り の 自 隣 協 の

TONARI no
JICHIKYO san

中央地区自治振興会

できること・好きなことから始める地域づくり

中央地区自治振興会は、氷上地域のほぼ中心、中央小学校区に位置し、人口約4,200人、約1,700世帯、20自治会と各種団体で構成されています。丹波市役所本庁や中央図書館など、公共施設が集積している地域でもあり、350年余りの伝統がある「愛宕祭」を守り続けている地域もあります。

振興会はひかみ成松交流館を拠点に「安全安心で笑顔があふれ将来も住み続けたいまち中央」をスローガンに活動しています。住民自身ができること・得意分野を生かして活動するグループ作り、顔を合わせるコミュニケーションを大切にしています。住民同士の最大のコミュニケーションの場、「愛宕祭」が新型コロナウィルスの影響で中止となりました。このままでは、来年度以降の実施に課題が出てくるであろうと懸念されます。そのため、各グループの活動をどうすればできるかを考え実行していくことを念頭に、様々な取り組みを進めています。

空き家の利活用を話し合う取り組み

活動グループの1つに「CHATTA(ちゃった)」があります。中央地区にある空き家・空き店舗を活用して地域で何かできないかという発想から2017年に有志で集まつた地元住民と、愛宕祭の「造り物」で関わっていた関西大学の学生や青垣町佐治にある関西大学佐治スタジオとも連携しながら、みんなで話し合う場を開くことから始まりました。今も月1回のCHATTA会議を続けています。いよいよ本年度から賃借した空き家の活用に向けた改修作業や利用方法を実践していきます。

昨年はコロナ禍でも地域の皆さんに楽しんでもらいたいと「Halloween しCHATTA」を開催しました。子ども達とジャンボかぼちゃランタンを作り、空き店舗を使って射的や仮装撮影ブース・ハロウイン影絵を設置するなど、子どもたちを中心に地域の人々が楽しめる場を作りました。大きな行事が開催できなくても、地域に必要なことは「どうすればできるのか」を考え、地域を盛り上げています。



イベントで盛り上がるCHATTA拠点施設



若者の意見が飛び交う会議

丹波市民、学びの窓

スポーツにおけるダイバーシティ

ゆるスポーツをご存じですか? 2016年に設立された一般社団法人世界ゆるスポーツ協会は、年齢や性別、運動神経、障がいの有無に関わらず、誰でも参加できみんなが同じように楽しめる新しいスポーツを作り出しています。穴のあいたラケットで競技する『ブラックホール卓球』や、足が使えないイモムシウェアを装着し行う『イモムシラグビー』など、思わずクスッと笑ってしまう「ゆるスポーツ」は現在約100種類あります。多様な人に合わせて新しいルールが生まれ、誰にでも楽しんでスポーツができる工夫が凝らされています。

パラリンピック種目の1つ「ボッチャ」も多様な人が楽しめるスポーツです。パラリンピックでは障がいのある人が、障がいの種類や程度によってクラスに分かれて競技を行います。丹波市内では毎年「ボッチャ」の交流会が行われています。交流会では立つことができる人も椅子に座って競技をするルールがあり、それによって障がいの有無、種類に関わらず誰でも一緒に競技ができます。丹波市で活動される、ひょうご障害者スポーツ指導者協議会指導者の田邊安彦さんは「新しいルールを考えることで分け隔てる壁を取り除いてみんなが触れ合える。そんな新しい

形を作るにはいろいろ人の意見がいる。」と話されます。田邊さん達の活動には『風船バレー』や『卓球バレー』『車いすバスケットボール』など様々な種目があり、多様な人の参加を呼びかけています。

一緒に楽しむだけで仲良くなることができ、見えない壁で分断されていた人や心が自然と交わることができるかもしれないスポーツの世界。楽しみながらダイバーシティを体感する第一歩にいかがでしょうか。



丹波市ボッチャ交流大会



繋ぐ!市民活動 劇団水彩パルチザン

仕事や勉強、家庭を第一にし、自分の生活基盤をしっかりと全うした上で真剣に遊ぶことを大切にしている演劇グループ劇団水彩パルチザンは、2005年に団員2名からスタートしました。演目はオリジナル脚本のコメディーや会話劇が中心で、公演会場も会議室を使用し、演者と観客の距離が近いことが特徴です。

現在は小学生から社会人まで幅広い年代の団員が約20名所属、そのほとんどが演劇未経験者です。2021年で16年目に突入し、長年在籍している団員もいます。また入団当時中学生だった団員が退団した後も演劇活動を続けています。

団長の足立知也さんは「水彩パルチザ

ンをきっかけに演劇に関わる人を1人でも多く増やせる機会をつくりたい」と話します。社会人や主婦も所属していて、家庭の時間等を大切にするために練習時間は2~3時間と短時間です。コロナ禍で公演や集まっての練習が難しくなったことに対しては、新たな取り組みとしてリモートラジオドラマや朗読を始めました。やりたいことを実現するために皆で考え、行動することを大切に、リモートラジオドラマでは新たに脚本に挑戦する団員もいます。

できないことはできないと判断し、今できることを探しながら挑戦し、活動を続けています。



会議室を使用した公演



コロナ禍でのリモート練習会



活動事業者紹介

株式会社 丹波 婦木農場

「これまでやってきたことの最大の成果は、息子2人が後継者として帰ってきたこと」と話す婦木農場代表の婦木克則さん。300年以上続く農家の10代目として米や野菜の生産、養鶏、酪農を営んできました。

農家の長男として家業を継ぐ道を歩みながらも、農業にあまり自信を持てなかつた婦木さんは、地元を離れ、農業者大学校へ進学し、大学校で学ぶ中で農業を楽しめばいいという考え方方に出会いました。

地元に帰ってきた婦木さんはまず、農業を中心できることを模索し、農産物の産地直送を広げていきました。さらにもっと多くの人、若い人に農村の良さ、

農業の楽しみを体で感じてもらいたいと、農家体感施設○(まる)をオープンし、2021年8月には8周年を迎え、地域の生き生きとした拠点として勢いは止まりません。

その父の姿を見て、一度外の世界で学び、地元に帰り、チーズ作りや農場の情報発信、ネット販売など各自の得意分野でともに農場を支えているのが長男の敬介さんと次男の陽介さんです。

一度地元を出て、帰ってきてから自分の力が活かすことは決して簡単なことはないかもしれません。それでも、「地元の人が地元のことを大事に思い、胸を張って元気に暮らしていれば、次世代に

つながっていく」というメッセージを発信する婦木さんの姿には「帰ってきたい」と思わせる力が宿っています。



長男の敬介さん、チーズ工房にて



農家体感施設○(まる)と、次男の陽介さん



丹波市市民活動支援センター

TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内

TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp

開館時間 10:00 ~ 18:00 (会議室は21:30まで) / 休館 毎週月曜日・12月29日~1月3日

<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

【情報誌へのご意見募集】

「たむたむ」についてみなさんが
のご意見、ご要望をお待ちして
います。役立つ情報紙を一緒に
作っていきましょう。